第一興商

2027年3月期中間期
決算説明会資料

2026年11月20日



Contents

目次

01 決算概要 P3

02 2027年3月期の見通し P16

03 トピックス P25



01　決算概要

02　2027年3月期の見通し

03　トピックス

2027年3月期中間　決算サマリー

主要事業が好調に推移し、全ての事業セグメントで増収・増益
売上高は中間期として過去最高、営業利益は修正予想をさらに上回る

- 前期の新商品効果（LIVE DAM WAO!）が剥落したものの、全ての事業で増収となり、
  売上高は前期比5.2%増（中間期過去最高）

- 中間期での営業利益100億円超えは2018年度以来の高水準　8月に上方修正した中間期予想を上回る

- 主要事業が好調な推移

  業務用カラオケ事業：DAM稼働台数は安定的に推移し、前年同期比微増
  新商品効果が剥落し、前期比では卸売が減少も、10月の商品価格改定実施前の駆込み需要を取り込む
  カラオケ・飲食店舗事業：既存店前年比　（カラオケルーム）+3%、（飲食）+4%
  パーキング事業：期末施設数　4，600施設　53，000車室　と堅調に増加

- 営業利益　前年同期比25.4%増、経常利益 同27.1%増、中間純利益 同11.9%増

- 上期業績予想を上回る進捗となったものの、商品販売での反動減が想定されることなどから、通期業績予想については据え置き　売上高 1,690億円　営業利益 193億円　経常利益 197億円　当期純利益 126億円

業績ハイライト

全ての事業セグメントで前期比増収・増益かつ中間期の業績予想を上回る進捗

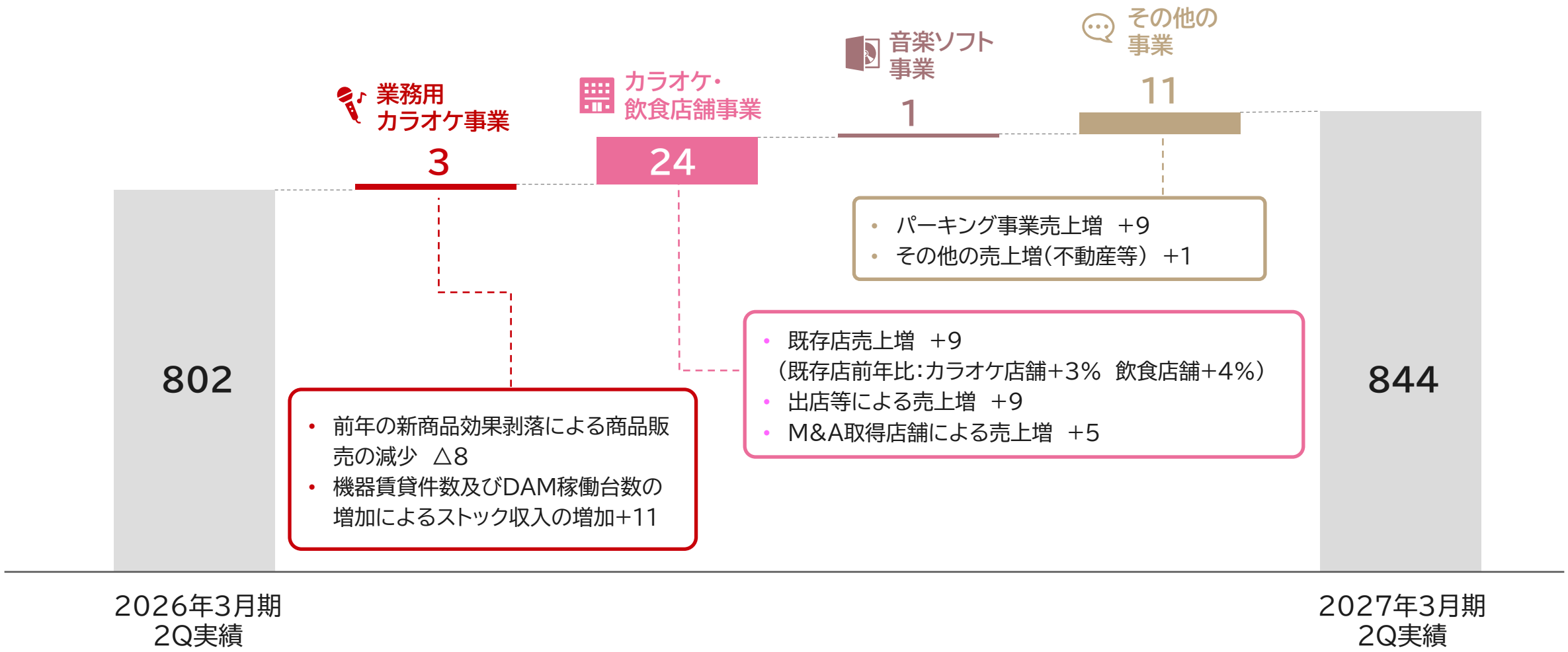
（単位:百万円）	2026年/3月期 中間期	2027年/3月期 中間期			
	実績	実績	前期比(%)	業績予想	予想比(%)
売上高	80,276	84,412	5.2	83,100	1.6
売上総利益	27,685	29,829	7.7	-	-
販売費及び一般管理費	19,254	19,260	0.0	-	-
営業利益	8,430	10,568	25.4	9,600	10.1
経常利益	8,606	10,936	27.1	9,800	11.6
親会社株主に帰属する当期純利益	6,117	6,844	11.9	6,200	10.4

業績ハイライト(セグメント別)

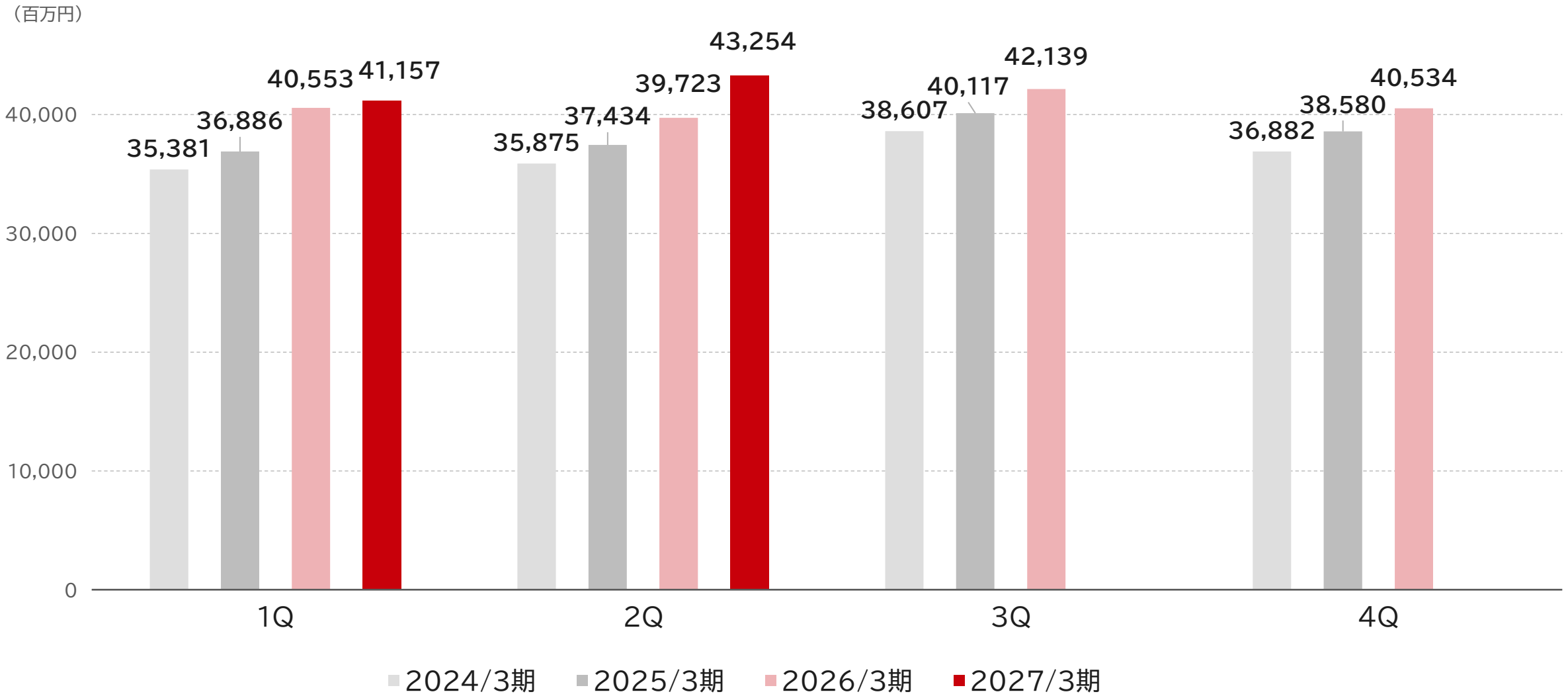
	(単位:百万円)	前期2Q	実績	前期比(%)	業績予想	予想比(%)
業務用カラオケ事業	売上高	33,644	33,953	0.9	33,050	2.7
	営業利益	6,236	7,457	19.6	6,900	8.1
	営業利益率(%)	18.5	22.0		20.9	
カラオケ・飲食店舗事業	売上高	33,656	36,149	7.4	35,850	0.8
	営業利益	2,432	2,826	16.2	2,600	8.7
	営業利益率(%)	7.2	7.8		7.3	
音楽ソフト事業	売上高	2,628	2,808	6.8	2,800	0.3
	営業利益	110	192	74.7	180	7.2
	営業利益率(%)	4.2	6.9		6.4	
その他事業	売上高	10,346	11,501	11.2	11,400	0.9
	営業利益	1,436	1,844	28.4	1,700	8.5
	営業利益率(%)	13.9	16.0		14.9	
全社費用	売上高	-	-	-	-	-
	営業利益	-1,785	-1,753	-	-1,780	-
	営業利益率(%)	-	-	-	-	-

売上高増減要因分析

（億円）

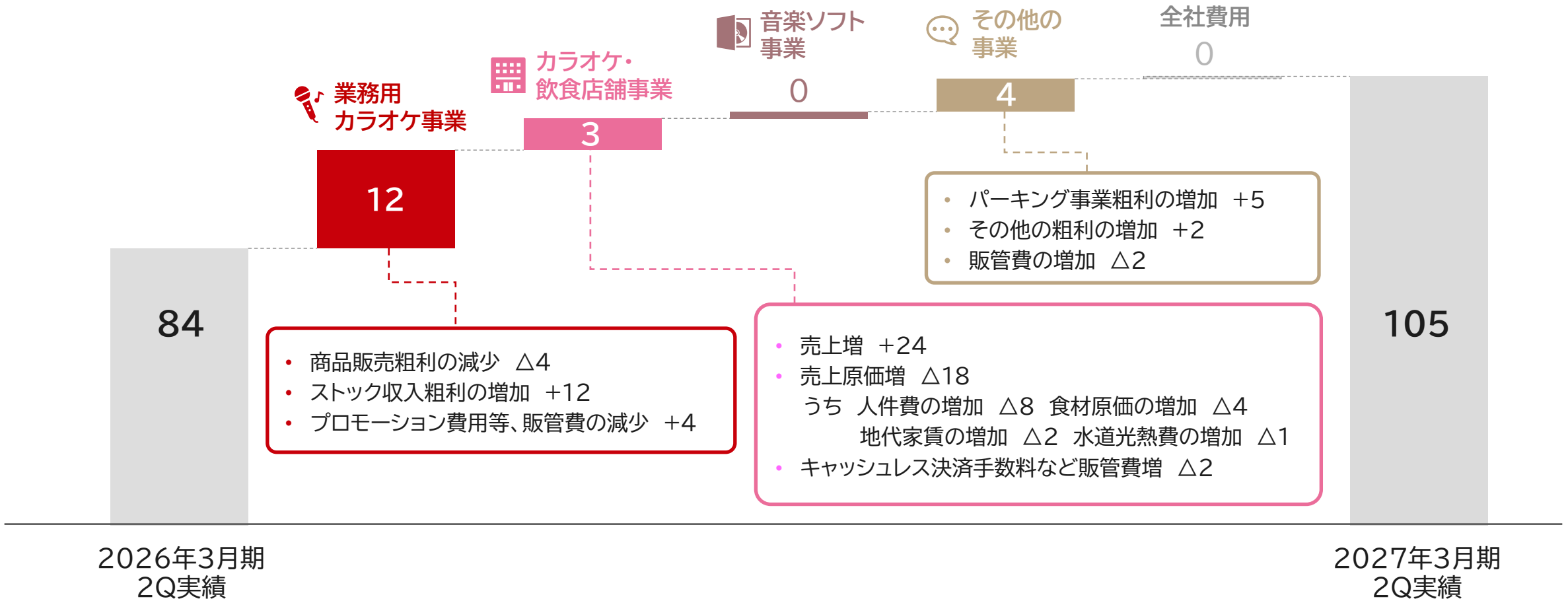


四半期別売上高推移

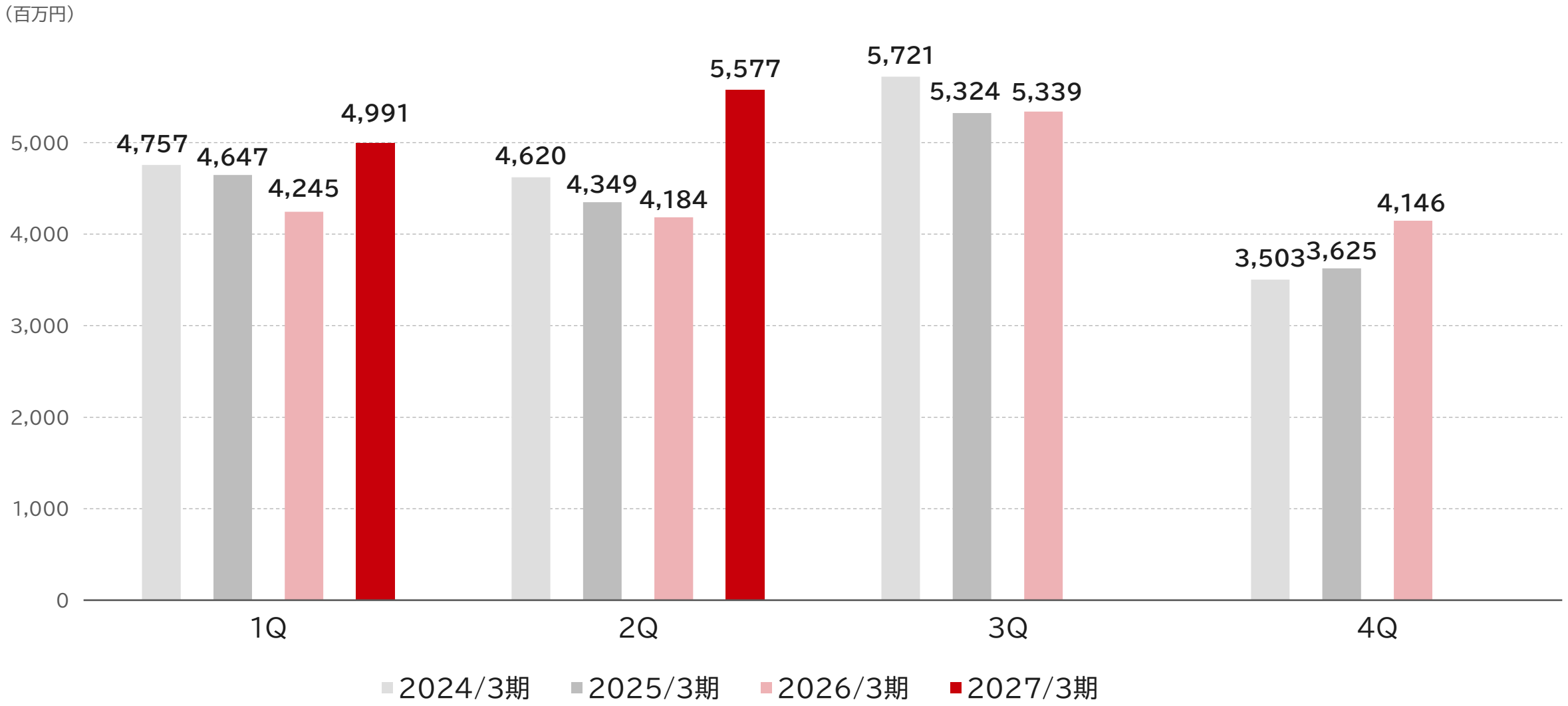

（百万円）
40,000
30,000
20,000
10,000
0
35,381
36,886
40,553
41,157
35,875
37,434
39,723
43,254
38,607
40,117
42,139
36,882
38,580
40,534
1Q
2Q
3Q
4Q
2024/3期
2025/3期
2026/3期
2027/3期

営業利益増減要因分析

（億円）



四半期別営業利益推移


（百万円）
5,000
4,000
3,000
2,000
1,000
0
4,757
4,647
4,245
4,991
4,620
4,349
4,184
5,577
5,721
5,324
5,339
3,503
3,625
4,146
1Q
2Q
3Q
4Q
2024/3期
2025/3期
2026/3期
2027/3期

第一興商

事業環境(業務用カラオケ)

事業環境

- カラオケ市場は全体として底堅く推移。当期末のDAM稼働台数は、前年同期比微増
- 前期の新商品効果が剥落し、卸売を中心とした商品販売は減少したものの、商品価格改定(10月)前の駆込み需要があったほか、ストック収入は増加
- 新コンテンツ「推しカメライブ」、本人映像拡充などによるDAMの商品力強化
- メディアやイベントとのタイアップでカラオケ需要の喚起

推しカメライブ



LIVEDAM wAO!

事業セグメント別のKPI

	2025年9月期	2026年9月期
DAM稼働台数	22.2万台	22.2万台 (+0.2%)
機器賃貸件数	11.7万台	12.2万台 (+4.1%)

全体のうちエルダー市場向け

	2025年9月期	2026年9月期
エルダー向けDAM開局状況	2.9万台 / 22.2万台	2.9万台 / 22.2万台 (+2.4%)

事業環境(カラオケ・飲食店舗事業)

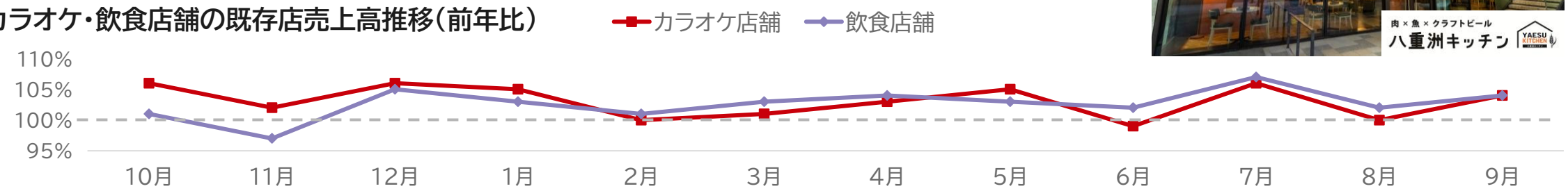
事業環境

- 想定を上回る堅調な集客→既存店売上高はカラオケ店舗+3%、飲食店舗+4%
- カラオケ店舗:機器・音響・美観のクオリティ向上、コラボ企画、
  好立地を生かして収益力強化に繋がる取り組みの推進
- 飲食店舗:店舗環境・接客・料理のクオリティ向上→予約受注好調
  9月、東京駅直結の「TOFROM YAESU」に2店舗を出店
  MARUNOUCHI BASEなど飲食とアミューズメント複合店舗が収益貢献

	出店	閉店	26/9末 店舗数
カラオケ	4	5	520
飲食	10	5	172



カラオケ・飲食店舗の既存店売上高推移(前年比)



	2026/3期						2027/3期					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
カラオケ店舗	106%	102%	106%	105%	100%	101%	103%	105%	99%	106%	100%	104%
飲食店舗	101%	97%	105%	103%	101%	103%	104%	103%	102%	107%	102%	104%

事業環境(音楽ソフト・パーキング)

音楽ソフト事業

- 「純烈」の弟分グループ「モナキ」のデビューシングル『ほんまやで☆なんでやねん☆しらんけど』が収益に貢献





- ビッグエコーでのコラボ企画の展開など、グループシナジーを発揮

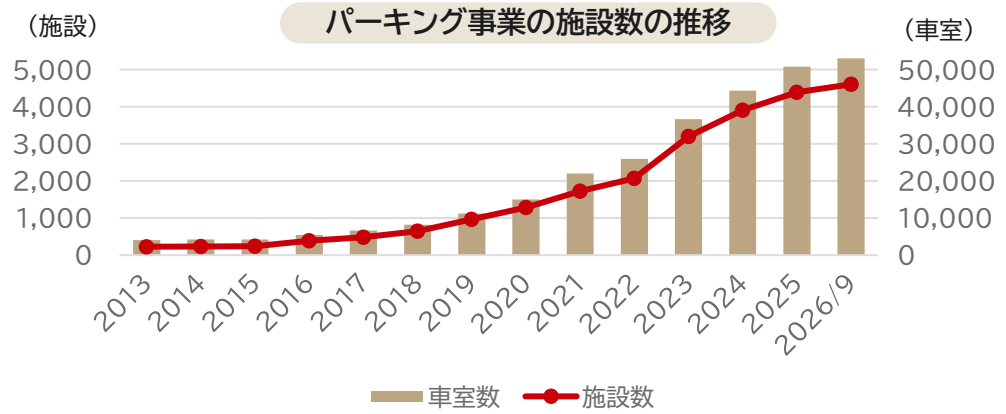




パーキング事業

第一興商のザ・パーク

- 新規パーキング施設が堅調に増加
- 不採算施設の整理などによる粗利率改善



事業セグメント別のKPI

	2025年9月期	2026年9月期
パーキング施設数	4,200施設	4,600施設 ＋9.3％
パーキング車室数	48,000車室	53,000車室 ＋9.7％

連結貸借対照表

**利益剰余金が増加する一方、未払金等の負債が減少し、
自己資本比率は57.6%と前期末比1.5%pt上昇**

（単位：百万円）	2026年3月期 実績	2027年3月期 中間期 実績	前期末比(%)	コメント
流動資産	77,209	73,350	△5.0%	現預金及び棚卸資産の減少
固定資産	143,235	147,678	3.1%	賃貸用カラオケ機器及びカラオケ・飲食店舗設備の増加
資産合計	**220,445**	**221,028**	0.3%	
流動負債	27,351	24,566	△10.2%	未払金の減少
固定負債	67,744	67,376	△0.5%	
負債合計	**95,096**	**91,942**	△3.3%	
株主資本	122,263	125,076	2.3%	
その他包括利益累計額	1,376	2,233	62.3%	
純資産合計	**125,349**	**129,085**	3.0%	
負債・純資産合計	**220,445**	**221,028**	0.3%	

連結キャッシュ・フロー計算書

税前利益の増加や棚卸資産の減少などにより、営業C/Fが増加
適正なキャッシュ水準を維持

（単位：百万円）	2026年3月期 中間期 実績	2027年3月期 中間期 実績	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,798	16,062	4,263
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,617	△14,981	△1,364
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,383	△4,885	8,498
現金及び現金同等物の期首残高	41,584	48,475	6,891
現金及び現金同等物の期末残高	26,387	44,779	18,392
フリー・キャッシュ・フロー	△1,818	1,080	2,899

01　決算概要



02　2027年3月期の見通し

03　トピックス

2027年3月期業績予想

各主要事業が好調に推移したほか、DAM価格改定に伴う販売の前倒しが
上期業績の押し上げ要因となった

（単位：百万円）	2026年3月期	2027年3月期					
	中間期	中間期				通期	
	実績	実績	前年同期比	予想	予想比	予想	進捗率
売上高	80,276	84,412	5.2%	83,100	1.6%	169,000	49.5%
営業利益	8,430	10,568	25.4%	9,600	10.1%	19,300	54.8%
営業利益率(%)	10.5	12.5	+2.0pts	11.6	+0.9pts	11.4	―
親会社株主に帰属する当期純利益	6,117	6,844	11.9%	6,200	10.4%	12,600	54.3%

2027年3月期下期の状況

主要事業の活動は引き続き堅調な推移を想定
業務用カラオケ事業における反動減なども織り込み、通期予想は据え置き

業務用カラオケ事業

→ 10月にDAM主要商品の価格改定を実施
効果的な機器ローテーションによりDAM1台あたりの収入増加に努める

カラオケ・飲食店舗事業

→ (カラオケ店)早い時間の集客が伸長 (飲食店) コース予約好調

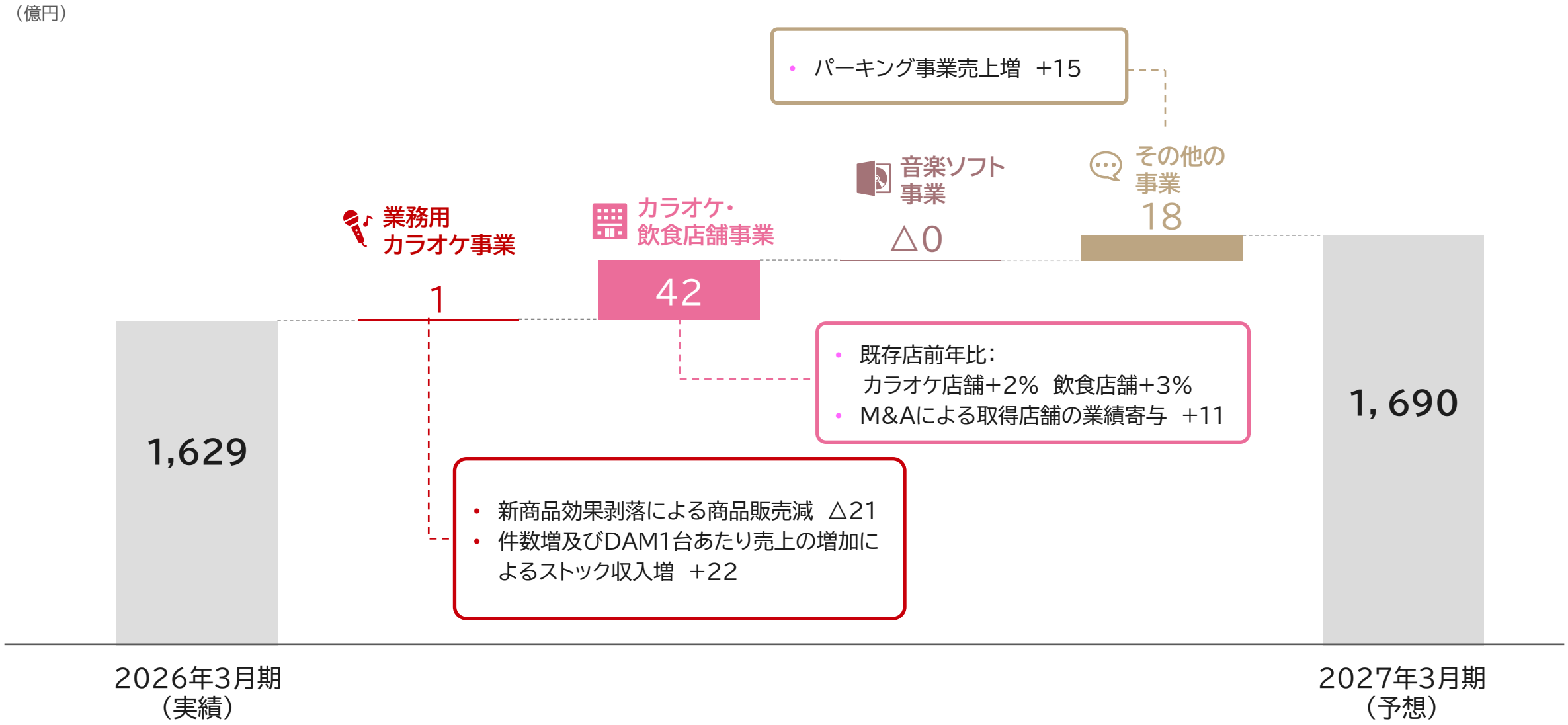
→ 既存店の好調を維持

パーキング事業

→ 施設数の増加と共に、収益性向上・施設の美観維持に注力

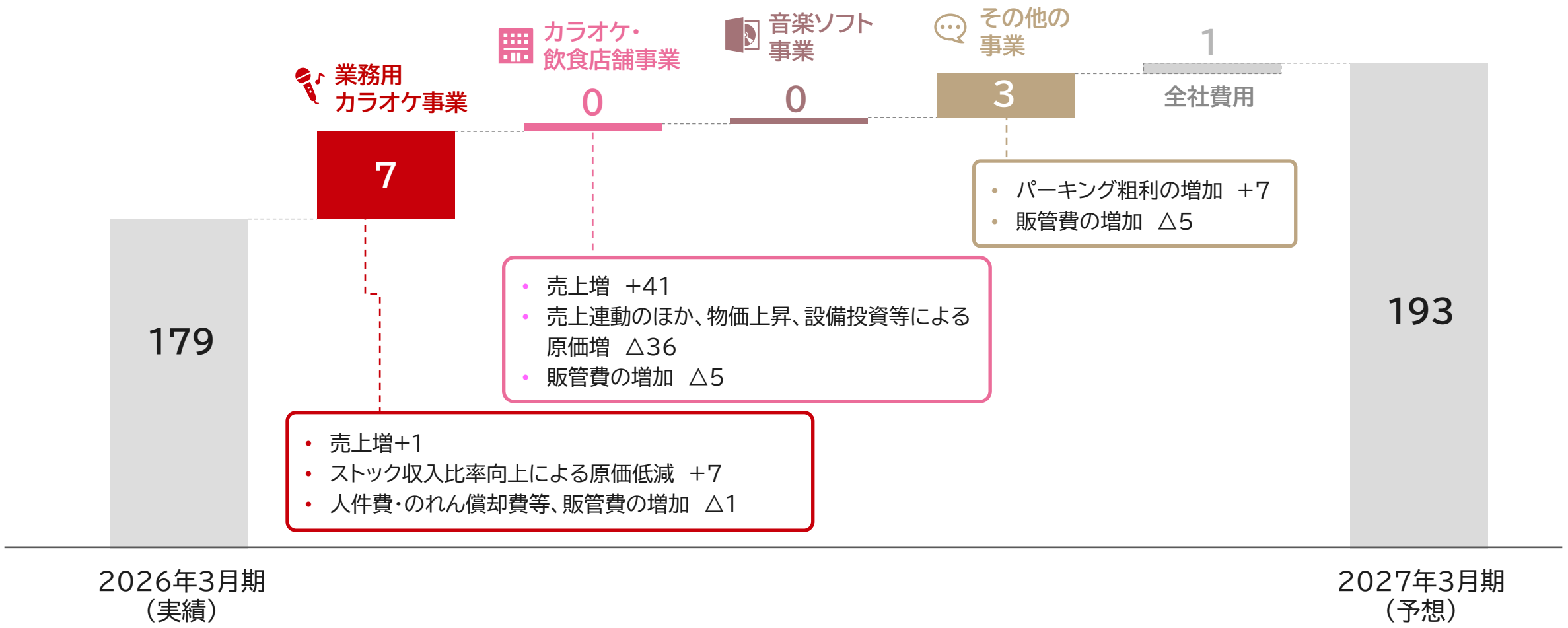
- 上期にあったDAM価格改定前の駆込み需要による反動減を見込む
- 通期業績予想については2026年8月6日公表の予想を据え置き

売上高予想　増減要因分析



営業利益予想 増減要因分析

（億円）



2027年3月期 セグメント別業績予想

業務用カラオケ事業

- ナイト市場
- エルダー市場
- カラオケボックス市場

セグメント別売上高

65,400百万円 +0.2%

セグメント別営業利益

12,700百万円 +6.5%

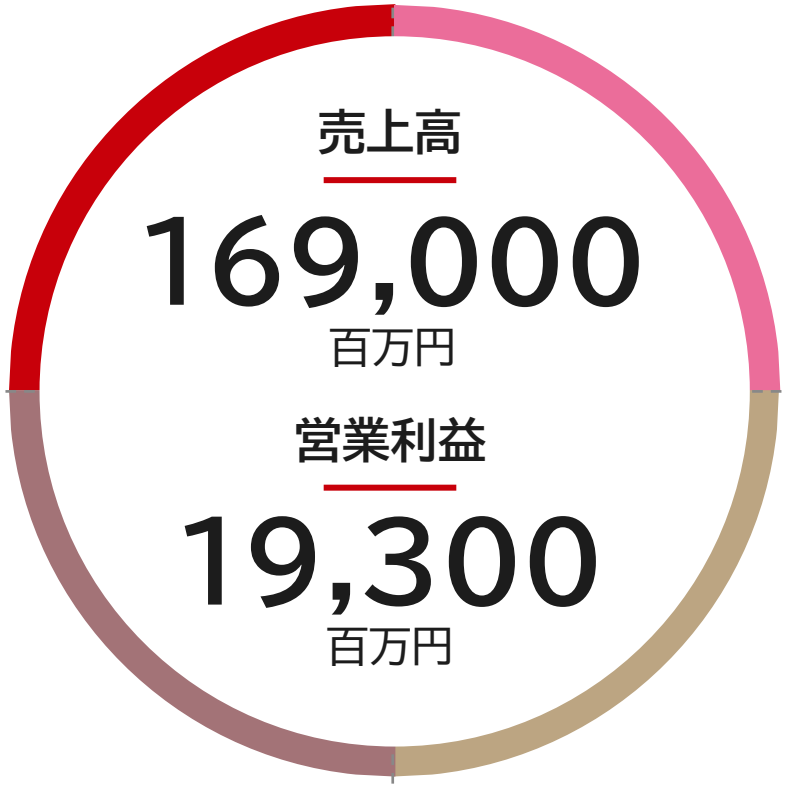
音楽ソフト事業

セグメント別売上高

5,400百万円 △1.1%

セグメント別営業利益

200百万円 +42.5%



カラオケ・飲食店舗事業

セグメント別売上高

75,200百万円 +5.9%

セグメント別営業利益

6,700百万円 +1.0%

その他の事業

- パーキング事業
- 不動産賃貸事業
- BGM放送事業など

セグメント別売上高

23,000百万円 +8.4%

セグメント別営業利益

3,200百万円 +13.8%

2027年3月期 セグメント別実施施策

業務用カラオケ事業

ナイト市場 カラオケボックス市場

- LIVE DAM WAO!の新たな機能・コンテンツの訴求により、カラオケ利用者のすそ野の拡大・歌唱回数の向上を図る
- 10月より主要商品の価格改定を実施
- 中心地において、さらなるシェア向上に努める
- 旧機種からの効果的な入替えを推進することにより、DAM1台あたりの収益向上を図る

エルダー市場

- エルダー市場専用機「FREE DAM LIFE」の拡販と新機能の訴求で、健康寿命の延伸、介護施設職員の業務負荷軽減に貢献
- 大学等との共同研究により「歌うこと＝健康」の認知拡大
- 成長市場として、稼働台数の増加を図る

その他

- Toyota Woven Cityでの実証実験などを通じて、新たな歌える環境の創出を図る

音楽ソフト事業

重点施策

- 新人アーティストの発掘とヒット曲の創出に努めるとともに、音楽出版事業にも注力することにより、堅実な収益モデルの構築

カラオケ・飲食店舗事業

共通

- 一等地戦略をさらに推進、人口集積地への出店により収益力強化を図る

カラオケ店舗

- メーカー直営店として、設備とサービスの両面を充実させ、顧客満足度向上を図る
- アーティストやアニメ等とのコラボレーション企画によるライト層集客増
- 好立地を生かした各種サービスとの提携による収益力最大化

飲食店舗

- 顧客のニーズを捉えた新たなブランドの開発に注力
- 主力業態である個室ダイニングのほか、カラオケやダーツなどのアミューズメントを含めた幅広い客層の開拓

その他の事業

- パーキング事業
- 不動産賃貸事業
- BGM放送事業など

パーキング事業

- M&Aを含む新規施設開拓を進め、さらなる事業規模の成長
- 不採算施設の改善・整理を通じて収益力向上を図る

全社

- 3か所に分散していた本社を1か所へ集約したことにより、部門間のコミュニケーションをより活性化し、生産性の向上と新たなイノベーションの創出を図る

2027年3月期 連結経営指標計画

全体として営業利益率が改善
DAM稼働台数やカラオケ店舗の期末店舗数、パーキング件数については下方修正

会社全体で重要視する経営指標

ROE

中長期目標
12.0%以上

利益成長
営業利益率向上

EPS 121.9円

資本最適化

2026年3月期	2027年3月期
13.2%	9.9%(△3.3pts)

固定資産の売却益が剥落

事業セグメント別の営業利益率

	2026年3月期	2027年3月期(予想)
業務用カラオケ事業	18.3%	19.4%
カラオケ・飲食店舗事業	9.3%	8.9%
音楽ソフト事業	2.6%	3.7%
その他事業	13.3%	13.9%

事業セグメント別のKPI

	2026年3月期	2027年3月期(予想)	
DAM稼働台数	22.2万台	22.3万台	(+0.4%)
機器賃貸件数	11.9万台	12.3万台	(+2.9%)
カラオケ店舗	521店 既存店前年比 104%	523店 102%	(+2店)
飲食店舗	167店 既存店前年比 102%	180店 103%	(+13店)
パーキング施設数	4,400施設	4,800施設	(+400施設)
パーキング車室数	51,000車室	55,000車室	(+4,000車室)

株主還元

配当方針

- 強固な財務基盤を維持しつつ、中長期の安定的な利益成長を実現することにより企業価値向上を図るとともに、株主の皆様に利益を還元していくことを重要な経営課題。
- 配当性向50%を目安に、安定的かつ積極的な利益還元を行うことを基本方針に設定。
- 併せて、資本効率向上のための自己株式取得も適時に実施

株主還元実績

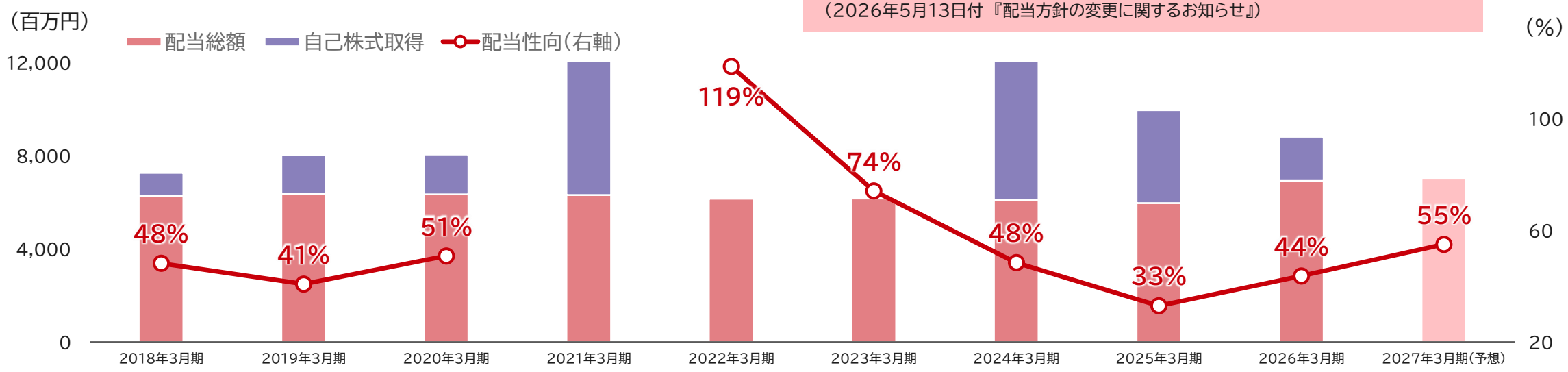
・コロナ影響下も含め、上場以来「増配」あるいは「維持」を継続
・安定的かつ高水準の配当＋適時の自己株取得

≪配当方針の変更≫

株主の皆様へ安定的かつ積極的に利益を還元していく姿勢をより明確化することを目的に、目安とする配当性向を

30%→50%へ引き上げ

（2026年5月13日付『配当方針の変更に関するお知らせ』）



	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期(予想)
1株あたり配当金	55.5	56.0	56.5	56.5	56.5	56.5	57.0	57.0	67.0	68.0

※配当金額は、2023.4.1付に実施した株式分割(1/2)を考慮し金額の調整を行っています。

01　決算概要

02　2027年3月期の見通し



03　トピックス

SR/IRトピックス

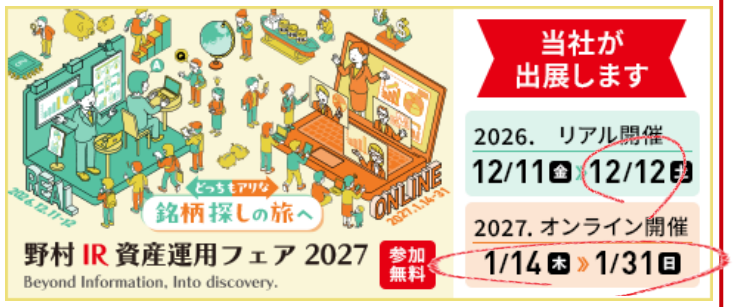
株主優待券の電子化



保有株式数	贈呈金額
200株～1,999株	5, 000円分
2,000株以上	12, 500円分

当社は、年2回(中間期、通期)配布しております株主優待券を、2026年12月配布分より、従来の紙(冊子)から使い切り型の電子カードへ変更いたしました。ビッグエコー等のカラオケ店舗に設置した自動精算機でもご利用可能になるほか、スマートフォンを利用してご家族で共有・プレゼントすることもできます。配布対象となる株式数や配布金額等、ご優待内容には変更ありません。
是非お近くの当社店舗をご利用ください。

野村IR資産運用フェア2027への出展



個人投資家様向けのIRイベント「野村IR資産運用フェア2027」に出展いたします。リアル会場(12/12のみ)でのプレゼンテーションのほか、1月にはオンラインブースを展開し、事業の強みやビジネスモデルについてご説明いたします。
この機会に、当社への関心とご理解を深めていただければと考えております。
皆様のご来場を心よりお待ちしております。

リアル開催会場	TODA ホール&カンファレンス東京 4階
参加方法	事前の来場者登録が必要となりますので、下記URLよりお申し込みください。 (入場無料) https://fair.nomura-ir.co.jp/

シェアードリサーチレポートの発行





https://www.dkkaraoke.co.jp/stockinfo/sharedresearch.html

第三者機関による、当社事業・業績に関する分析レポート(日本語/英語)を無料でご覧いただけます。

第一興商

本説明会及び説明会資料の内容は、発表日時点で入手可能な情報や判断に基づくものです。将来発生する事象等により内容に変更が生じた場合も、当社が更新や変更の義務を負うものではありません。

また、本説明会及び説明会資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、多分に不確定な要素を含んでいるため、実際の業績等は、さまざまな要因の変化などにより、これらの見通しと異なる場合がありますことをご了承ください。